

延岡の戦い描くことが大切

「西郷どん」の姿に迫る

時代考証を担当 原口さんが講演

延西同窓会が主催

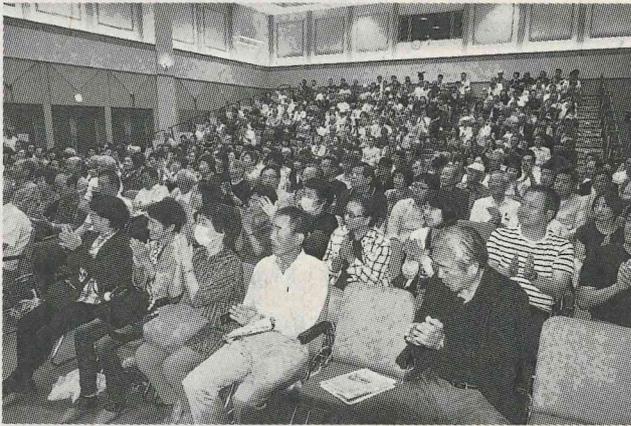
鹿児島県立図書館長で歴史ドラマの時代考証を数多く手掛ける原口泉さんの講演会が6月23日、延岡市のカルチャープラザのべおかであり、大勢の人が詰めかけ、西郷どんの姿に迫った原口さんの話を聞いた。主催は延岡西高校同窓会(野中玄雄会長)。ふるさと貢献活動の一つとして、平成26年に行った同高OBの音楽家山口雅子さんのコンサートに続く2回目の事業。

講師の原口さんは、西郷どん「明治維新」な郷研究の第一人者。放送のほど！和田越えの決戦!!をテーマに話した。

郷研究の第一人者。放送中の「西郷どん」の時代考証を担当し、近著「西郷どんとよばれた男」も好評を博している。講演は「西郷どんとよばれた男・そつなんだ!」西郷



講演する原口さん(6月23日、カルチャープラザのべおか)



原口さんの講演に聴き入る満員の来場者

「ドラマの中で延岡での戦いを描くことが大切だと拍手が湧き起こった。」

時代考証を担当したN

HKの大河ドラマや朝の連続テレビ小説は「翔ぶが如く」「琉球の風」篇「姫」など。講演ではこれらの時代背景に触れ、西郷さんの人となりについて、18歳から28歳まで郡方書役助(こおりかたかきやくたすけ)という、下っ端の下っ端役人でした。これは、よほど能力がないか、百姓の側に

とは明白でした。

「困った人、弱い人を助けずにはいられない。友だちを見捨てることのできない、そういう生き方が『命も要らず、名も要らず、金も要らず、官位も要らず、そういう人は始末に困るものなり』という西郷さんの言葉になります。しかし、国の艱難(かんなん)を共にするには、そういう人と

一緒にしなければ成し遂げることができないと、山岡鉄舟に会った時に言っているんですね。それが明治に入って語録として、世に広まりました」

また、史実でないことをドラマの中で容認することについて、「作家の方々はドラマの中で何が大事なのかを書きたい訳で、それは学問や論文よりもはるかに人の心を捉える。ここが違う、あれが違うと言いだしたら、ドラマは生まれない。史実を優先してドラマをぶち壊しにしたいくないという気持ちで、私はやっています」などと話した。

残り半年の無病息災願う

各地で夏越しの大祓

7/2

半年間の罪や汚れをはらい清める「夏越(なごし)の大祓(おほはらえ)祭」が6月30日夕、県北各地の神社で行われた。参拝者は茅(ちがや)を束ねて作られた茅の輪を8の字を描くように左、右、左回りにくぐって身を清

め、残り半年の無病息災などを願った。

延岡市の今山八幡宮(伊藤俊郁宮司)の大祓祭は今山恵比須神社であり、罪や汚れをうつした紙の人形(形代)かたし(ろ)を神社に納めた大勢の参拝者が、直徑約2.5

㍎の茅の輪をくぐった。

その後は社務所で受け取ったろうそくに火をともし、神前に立てて所願成就を祈願。社殿内では伊藤宮司ら3人による特別祈願が営まれ、境内では無事故を願う車のおはらいも行われた。

毎年参拝しているという延岡市の90代男性は「家内安全や健康など、全てのことをお祈りした」と話した。

同市恒富町の春日神社(木村健男宮司)でも同日、夏越大祓を実施。参拝者全員が参加し茅輪神事が営まれ、木村宮司は夏越しの大祓の由来を「夏越しには心をなごす、和やかにするという意味も含まれています」などと

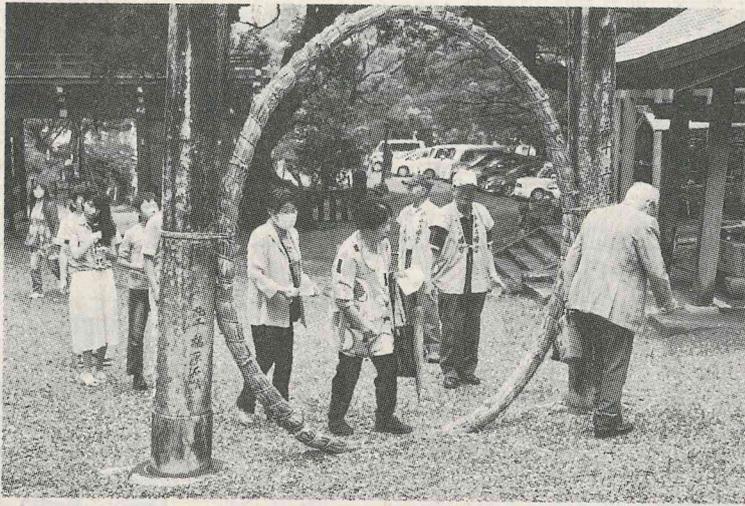
説明した。

参拝者は「蘇民将来(そみんしょうらい)」など「夏越大祓和歌」を唱えながら直徑約3㍎の茅の輪をくぐり、社殿前に形代を奉納して手を合わせた。

その後、みこによるお神酒の振る舞いや、表千

家農秀社中によるお茶のもてなしを受け、境内に設置されたテント内で家族や友人と談笑した。

家族5人で参拝した同市の50代男性は「特に家内安全や孫の健やかな成長を願った。夏ハテしないように夏を乗り越えた」と話した。



茅の輪をくぐる参拝者(今山恵比須神社)



茅の輪をくぐる参拝者(春日神社)